

《発行所》

曹洞宗中国管区教化センター

〒722-0033 尾道市東土堂町17-29天寧寺内

TEL.0848-25-2855

FAX.0848-25-4148

心の電話：0848-25-2860

HP <http://kyouka-chugoku.com>

印刷/(有)メディアーツ TEL.0848-62-2223

平成十八年度 布教教化に関する告諭

私の一生涯の願いは、あらゆる人と人との仲良く共に助け合い、支え合うような和合の社会を築いていきたいとの一願につきまます。

世界は、利害を巡る駆け引きの中で、民族や宗教を対立の軸として、悲惨なテロや戦闘に血を流しています。

我が国においても、凶悪な事件や、自ら命を絶つ人が後を絶たず、仏弟子として力至らぬことに胸が痛みます。

奪い合い傷つけ合う社会は、遠からず滅亡に向かいます。

分け合い助け合う社会こそ、未来に希望を見出せるのです。

曹洞宗は、時代と社会を直視して、本年度も信仰生活の実践を「同事行」と定めます。

私たちは、共に限りある命を、一つの地球に生き、一つの大地に戻る身ではありませんか。人も自然も、全ては切り得ぬ関係の上に成り立っているのです。大切なことは、その関係の持ち方でありまます。

「我見・我執」の垣を越え、助け合い支え合う仏の道を歩みましょう。それが、『修証義』に示された「同事」です。

偏見や差別は、正しい人間関係をもたらしません。理解と反省によって、微笑み合える関係を築きましょう。(人権)

奪い合い傷つけ合えば、怨みの連鎖と

なります。分け合い支え合う喜びを知り、幸せを実現いたしましょう。(平和) 歯止めなき自然破壊は滅亡への道です。すべての命を慈しむとき、共生の輝きに包まれるのです。(環境)

皆様と共に、み仏の教えにかなった道を歩んで参りたいと切に願っています。南無釈迦牟尼仏

平成十八年度 布教教化方針

宗門の布教教化は、一仏両祖のみ教えを基本に、深く時代を見極め、「宗門に何が求められているのか、何をなすべきか」を熟慮し、推進すべきであります。その上で、混乱する世相にあつて、人々の光明となり得る寺院づくりを目指し、布教綱領「まごころに生きる」の実践として、次の如く「布教教化方針」を定めます。

一、主義主張や信条の違いから続く戦争やテロ、国内外で頻発する災害、子どもや高齢者に危害が及ぶ悲惨な事件、かかる社会情勢に鑑み、本年度も「同事行」を寺檀一体の信仰実践と定める。

二、「釈迦牟尼仏」こそ宗門の本尊であり、教えの根幹であることの周知を図るため、「南無釈迦牟尼仏」の唱名を更に弘め、両祖の教えを敷衍すべく、宗門の内外を問わず、宗典に触

れる機会を増やすよう働きかける。

三、仏教の根底にある慈悲に思いをいたし、常に同苦・同悲の心で、人権を尊重し、あらゆる差別事象に対し、仏教徒として事象解決の啓発教化に努める。

四、釈尊は、如何なる戦争も認めていないことを認識し、仏教徒として不戦の立場から平和実現に取り組む。

五、衆縁和合の立場から、地球環境を守り自然と共に生きていく、「グリーン・プラン」運動を継続する。

六、脳死、臓器移植、クローン問題等は、宗教観そのものに深く関わる問題であることを認識し、命と心に向き合う宗教者として考えていく。

七、菩薩行の実践として、社会に寄与するボランティア活動を推進するとともに、青少年の指導教化に努める。



(天寧寺 三重の塔)



はじめに、センター開所三十周年を記念とした事業から申し上げます。「法話集」、お寄せいただいた原稿は宗務庁の教化部と人権本部に閲覧と小添削をお願いしておりましたが、先般（三月六日・同十三日）教化部にて和賀課長・小松係長のご指導のもと、主監と私で最終一步前の校正を終了。

「センター移転」、未だ「具体的に企案せよ」の指示がありません。当方の姿勢が認められないことでしょうか。

「天童寺拝登と天台山・普陀山参拝」参加者は予定の半数でしたが、予定通り全行程を無事につとめました。

参加者各位のご道心と好天に恵

まれた真に充実の旅でありました。勝手ながら茲に芳名と道中の思いを記し、御礼と報告に代えます。

芳名(受付順)

荒木茂樹師(山口 亨徳寺) 青柳有伸師(宮崎 地福寺) 平野道安師(大分 梅松寺) 門脇利法師(島根一 正法寺) 和田善明師(島根一 宝隆寺) 泰野尚雄師(島根二 法蔵寺) 木村禮道師(山口 大寧寺内) 磯部誠司師(山口 華蔵寺) 橋本純司師(山口 西蔵院) 藤村光昭師(山口 瑞松庵内) 橋本高典師(山口 萬福寺内) 土田謙道師(山口 広沢寺) 土田裕明師(山口 広沢寺内) 駒大生) 菱田宗久氏(広島 ビーエス観光) 松原徹心(山口 光善寺) 以上十五名。

九月五日福岡を午後一時すぎに出発し、天童寺へは晩八時頃到着。清掃の回廊を懐中電灯の案内で進み、すっかりモダン化している宿坊に驚き。

暁天は三時の由、四時前のお迎えで朝課に随喜。朝課罷私どもの上供諷経。焼香師を島根第一の門脇副所長

老師・維那は参拝団の講師、センター布教師和田老師の助化で一同有難い感動のお拝でありました。

「こ」は高祖様が歩かれたところの念いがたつ諸堂の拝観、さらに古天童の参拝も成就。思いがけず新命の堂頭老師に拝問し、十時前下山。

阿育王寺は、高祖様の船に楫を買いに来た老典座のお寺、またアショカ王の名の寺で懐かしさを覚えます。まだ十時半ですが、参詣が続々増え、露天の店も出てきました。阿育王寺から高速度道を走り、天台山ホテルに到着。昼食後小休憩して、万年寺・方広寺の参拝へ。

万年寺は天台山最古の大寺院で、采西禅師修行の寺でもあります。目下、地元政府支援で復元中。完成は何年先か不明の由。方広寺は絶景の奇岩に囲まれた珍しい寺で、今修復の最中。しかし参詣は多く狭い参道に店がいっぱい、また滝をスケッチする人達を見かけます。昼食のホテルに泊まり、早朝総本山の国清寺に参拝。「国清」の寺号は、天台大師の「寺若成国即清」によるとの伝えあり。梅の

大木の前で、創建時の梅で文化大革命で枯れたが、嵐が止み本尊仏が帰られると梅が咲き始めた、と公務員ガイドの真剣な説明に恐れ入りました。

天台山から高速度道を二時間、寧波の高祖様入宗記念碑参拝、しばし阿育王寺の老典座と高祖様の出会いを念慕。

レストランで昼食、十四時半の高速度で普陀山へ約一時間。ずっと中国誦の大悲咒が流れています。上陸すると迎えのバスで、柴林竹から観世音菩薩が姿を現されたという潮音洞を参拝、回廊には日本観音霊場寺の碑がずらりと。

翌朝、普濟禅寺・方雨禅寺の参拝を済ませて昼食。午後一時の便で出港し、約二時間四十分後上海港の端に上陸。

専用で世話になったガイドもバスも、また先々のホテル・レストランも上等でした。

寺院が大革命の法難から次々に復興と、社会主義の中で参詣者が年々増加している現状をどう観るべきか、おかげさまで種々いたたきました。 拝具

岡山県宗務所だより

岡山県宗務所独自の活動としては夏休み親子参禅の旅があります。昨年度は大本山永平寺へ参禅を計画致した所、総数で五十一名とまずまずの参加を得ることができました。御本山への行き帰りのバスの時間帯が長いので、青少年教化員の協力のもと法話やビデオ・ゲームなどを織り混ぜながら有意義に活用できました。御本山での食事や坐禅の時も、子供たちは大変神妙で父兄の方々共にその作法や意味が深く印象に残ったようです。今年度もさらなる参加を呼びかけつつ、より充実したものにしたいと思っております。

人権関係では昨年は岡山県下各方面で、一度見学と供養をしてみたいという方々を募って長島愛生園での研修と供養を行いました。今年度は職員で、愛生園と光明園での施食供養を行います。又、秋の管内

●教化主事 野口 祥善

人権学習では水上勉原作の「釈迦内枢唄」の公演を行う予定です。

梅花関係では県の奉詠大会が四十周年を迎えるので記念誌的なものができるかとよいと計画しています。

護持会総会では一昨年来、二教区くらいずつ活動発表をしていただき皆さんにも喜んでもらって居ます。昨年は講演を弁護士の三瀬顕さんをお願いして大いに笑っていただきましたが、本年度は全国護持会長の鐘ヶ江氏にお話ししていただく予定です。

社会情勢、地球環境ともに変動の時代にあつて曹洞宗の我々が人々の寄り拠となるような行事、研修、又、日々であらねばならないと思われれます。



広島県宗務所だより

行事の活動報告

●教化主事 林 一成

山口きららドームでの全国大会は、当県より二六〇名の講員が参加。前晩は油谷温泉水泊。

県大会は、七月三日に庄原市民会館に於て講員六百名参加。被爆六十周年をテーマに、追悼法要並びに奉詠。

《寺族会》 総会は六月十六日三原グラウンドパレスにて、副所長の松原俊成老師の法話、続いて、宗教法人会計について受講。

秋季研修会は、十月二〇日世羅の鳳林寺を会場に宗務所長の鈴木章純老師の法話と、レクリエーションの藤枝義記先生の「自然と夢を」と題した実演と指導を受ける。

《檀信徒研修会》 十月中旬に尾道天寧寺と東城

徳雲寺を会場に、長福寺家古谷光現老師の講話、ビデオの人権学習を、共に百余名の檀信徒が研修。

《檀信徒本山研修》 十月三十一日より約八〇名の団参で大本山總持寺へ参籠して研修、下山後山梨の石和温泉泊

《東南アジア仏教遺跡巡拝の旅》 十一月八日〜十三日、参拝団十九名が世界遺産アンコールワットとアユタヤを訪ねる。(来年一月下旬インド仏跡巡拝予定)

《人権学習・現職研修》 十一月二十九日より人権主事栗原孝道老師の人権学習、花井寺井上義臣老師の葬儀法の講義。

梅花流全国大会 山口県で盛大に開催

◎教化主事 本多 知隆

昨年六月一日と二日に阿知須町の『きらら元氣ドーム』で全国から延べ約一万二千名をお迎えし、曹洞宗の大事業である梅花流全国大会が盛大に開催されました。

本年一〇五歳にられました曹洞宗管長宮崎奕保禅師様も永平寺森嶺雄監院老師ともにお元氣にお越しになられ、大会総裁として導師をお勤めになられ、御垂示もちょうだいいたしました。宮崎禅師様にお会いしたいと参加された檀信徒の方も多くありました。

十五年七月宮島のホテルで開催された『中国師範会特別講習会』におきまして、島根県伊藤皓元会長・清成昭典及び檀上尚道地元選出宗議会議員をはじめ中国地区各梅花流師範の皆様は山口県で引き受けるための指導を仰ぎ、具体的に進めることができました。また、中国管区教化センターの皆様や山口県内の寺院・詠範や宗侶・師範の方々が運営スタッフ

として、多大な協力をいただき大きな事故も無く盛会裏に終えることができました。心より感謝と御礼を申しあげます。
ご恩に報いるには今後この大会の成果を活かして、梅花流の発展につなげていくよう努力させていただきます。

◎教化主事 荒木 玄修

宗教離れといわれている時代に我々宗侶にながでできるのか？ただただ日々の精進、研鑽以外にはないのではないかと。平成十八年五月二十六日、本庁主催「禅をきく会」並びに「山口県檀信徒大会」が開催されます。この大会が宗門と檀信徒の絆をより密にする一つのきっかけとなるようお願いいたします。

◎教化主事 平澤 峻山

平成十七年度宗務所主催行事はもとより、各団体の多岐な活動により、実りある一年であったと思います。幾つか特記しますと、六月の本山研修会は總持寺様を会場に行いましたが、三・四名という大人数の参加に感謝しております。十月の中国管区婦人会島取大会には、三百余名の参加という盛況でした。同月には、三・四名という大人数の参加に感謝しております。十月の中国管区婦人会島取大会には、三百余名の参加という盛況でした。同月には、三・四名という大人数の参加に感謝しております。十月の中国管区婦人会島取大会には、三百余名の参加という盛況でした。同月には、三・四名という大人数の参加に感謝しております。

十八年度は、六月に本山研修会を永平寺様にて行いますが、二班に分けて、四百名の参加を予定しています。十月の檀信徒地方研修会は、板橋禅師に講師をお願いしております。十一月には、中曹青島取大会が、米子で開催されます。若手宗侶のエネルギーが楽しみです。

島根県第一宗務所だより

日々是好日

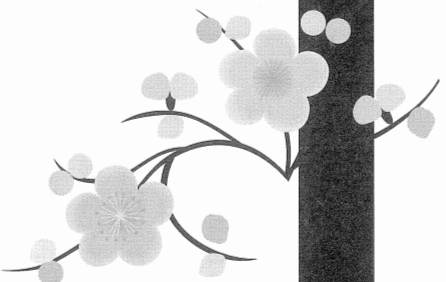
◎教化主事 多田 利昭

昨年度は、夏の早魃、冬の記録的豪雪の異常気象で明け暮れた一年でした。わが宗務所の行事も例年と比べて大きな変更点はありませんでしたが、諸行事ともほぼ計画通り執行することができました。これは偏に教区長老師をはじめ教区内の宗侶・寺院の方、檀信徒各位をはじめ関係諸機関のご支援・ご協力のお陰であり、衷心より厚く感謝を申し上げます。

今年度行事につきましては、昨年度と比べて目新しい行事はありませんが、主要行事としては、六月の檀信徒本山研修と地方研修会、特派布教師巡回、九月の人権学習会、十月の現職研修会、十一月の寺院研修会、三月の梅花奉詠大会と今年も目白押し行事が組まれていきます。更に今年度は教化センター主

催の青少年教化指導者研修会、中国管区布教協議会・講習会がわが宗務所内で開催されることになっていきますので、ますます多忙な一年となりそうです。この上は職務に専念し計画されている諸行事を適正かつ円滑に処理することはもちろんのこと、宗侶や寺院・檀信徒の教化育成にも更なる努力をしていきたいと思っております。

どうか今年度も役員一同、皆さん方のご協力をいただきまして、誠心誠意鋭意努力していきますのでどうかよろしくお願ひ申し上げます。



島根県第二宗務所だより

島二独自の活動について

◎教化主事 森田 裕光

○念願の宗務所会館建設開始
宗務所会館が、平成十八年二月三日地鎮式を了え、着工となりました。最新の設備を備えた二階建て建物延面積約二七三㎡の立派な会館です。駐車場完備で松江駅にほど近い寺町に建設、今夏には完成の予定です。

○宗務所研修会
現職研修のミニ版、「宗務所研修会」を行っています。対象は若手宗侶。平成十六年は「基本進退作法」、平成十七年は「引導法語の作り方」でいずれも好評でした。平成十八年は「受戒作法」を予定しております。

○宗務所青少年教化員研修会
平成十七年は一般専門家を呼

び「カウンセリング」の講習を致しました。平成十八年は宗教家カウンセラーを講師に「カウンセリング」講習の予定です。
○梅花流宗務所養成所
師範会入会は敷居が高いと感じる師範・詠範初級者の為の養成所を開設して三期目に入りました。一期二年で毎月一回上級師範が指導に当たり、大変好評で師範詠範が増え、梅花講も増加しています。



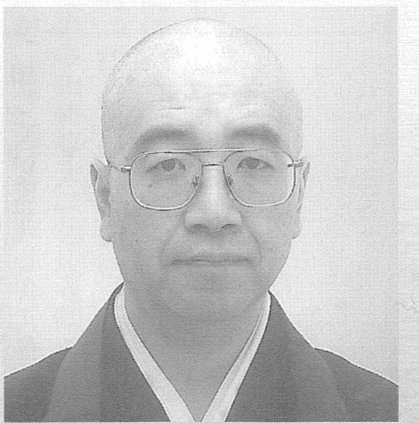
紙上法話

正師

センター布教師 東林寺

越海 暢芳

ちょうほう



私は、専門僧堂に入ってから、まだ間のない小参の折、堂頭老師に向かつて、「堂頭和尚は、正師や否や」と問いました。小参の後、「堂頭和尚は、正師に決まっておる」と、一人の老師から厳しいお叱りを受けました。私は、大学三年の時、高校時代の友人が、仕事場の事故で亡くなったという知らせを受けました。その時、私の心に湧いてきたものは、まことに薄情なことですが、友人の死を悼むものではありませんでした。今、自分が生きているということが恐ろしくなつたのです。

今、自分が死んでしまうということを考えたことがなかつたのです。

その恐ろしさは、今の自分では死にたくないという思いから出てきていました。

それならば、いつ死んでもいいと思える生き方をすればいい。いつ死んでもいいという生き方は、どういう生き方か。

私の考えは、ここまでで行き詰まってしまうました。

就職活動にも手がつかず、徒に日を過ごしておりましたら、「何もしないよりは、働きながら考えればいいじゃないか」と、働き場所を紹介して下さる方がありました。

働き始めて痛感したのは、自分の生き方が決まっていなないと、何をしても方向が定まらないということでした。ふがないと思いつつも、どうすることもできず、気持ちが沈むばかりでした。

そんなある日、本屋で、「正法眼蔵」「山田霊林」という、聞き覚えのある文字を見つけました。

「正法眼蔵随聞記講話」と書かれたその本に出てくる人達に、私は驚きました。このような生き方があるのか、このよきな生き方をしている人達がいるのかと。

私は毎朝、職場で一話読んで、仕事を始めるようになりました。

一話、一話に励まされ、読むごとに気持ちが楽になりました。

私は、このような生き方をしている人に会ってみたい。このような生き方が自分にもできるのなら、してみたいと思うようになりました。

「正師を得ざれば、学ばざるには如かず」

専門僧堂に入りこのお示しに接した時、「堂頭和尚は、正師や否や」と、問わずには、おられませんでした。

「尊公の裁量に任す」

と、堂頭老師は、答えて下さいました。

自分自身で確かめてみるということは、その人に親しく仏道を学ぶ以外にはありません。私の心は決まりました。

私は、幾人もの正師に出会えたことで、今、自分が生きていることの有り難さを知ることができました。

そして、この有り難さが、今を生きる力になっています。

この有り難さを、拙くとも、仏道に親しみ学ぶことで、伝えていきたいと願っています。

センター布教師

岡山	1 教区 9 番	東林寺	越海 暢芳	〒702-8005	岡山市江崎7-2-5-5	☎(086)276-5582
広島	3 教区 58 番	宗光寺	垣井 龍頭	〒723-0062	三原市本町3-11-1	☎(0848)62-4719
山口	2 教区 37 番	安養寺	渡辺 勝人	〒747-0825	防府市新田古前1-2-4-6	☎(0835)22-1865
山口	3 教区 72 番	真福寺	大野 恭史	〒746-0062	周南市福川中市町6-27	☎(0834)62-2760
鳥取	7 教区 151 番	安国寺	森下 慈孝	〒683-0831	米子市寺町50	☎(0859)22-3836
鳥根一	1 教区 236 番	宝隆寺	和田 善明	〒699-2302	大田市仁摩町宅野町1-3-5-5	☎(0854)88-2790
鳥根二	9 教区 187 番	養善寺	西古 孝道	〒699-1343	雲南市木次町湯村9-0-0	☎(0854)48-0371

第21回子ども禅インサマナーin広島・鞆の浦

平成十七年七月二十五日(月)～二十七日(水)



セミナーに参加して

指導員 藤井 光正

七月の初め、教化センターより指導員のお役をいただきました。はじめの参加(しかも指導員)というところで、どのような準備をして臨めばよいのだろうか、また子供たちに対してきちんと心配りができるだろうか、かなりのプレッシャーに不安を覚えながら開催当日をむかえることになりました。しかし私の抱いた戸惑いは、センターの先生方の行き届いたご指導と、そして何よりも子供たちの明るい笑顔と元気な姿に、知らずうち消されていきました。

福山市の賢忠寺に集合して開講式。私は小学校一、二年生の女の

子の班の指導員となりました。普段、読み聞かせのボランティアで学校へ行き子供たちと接する機会はあるのですが、教室という定められたシチュエーションで短期間だけ過ごすとは違い、二泊三日の間、いろいろな環境の中で、果たしてみんなと仲良くできるかなとドキドキしながら自己紹介をしました。もう一人の指導員である中村浩子先生がとても優しく、子供たちはお姉ちゃんのように慕ってくれて、私はホッとしました。中村先生には、班員の健康面への配慮や部屋の清掃の手伝いなど、細かなところまでお気遣いくださいます。本当に有難うございました。

楽しかった事がたくさんあった中で、私が感動したのは、子供たちの一生懸命なところでした。慣れない坐禅に真剣に向かう姿。天寧寺の羅漢さまを目の当たりにし

て哑然としたような表情。特に、班別行動などの際にお互いの気付いた点を伝え合うことができることや、それぞれの意見を話し合っただけでいることに、私が思っていたよりもずっと助け合うことができ、友達を大切にすることが学びとっているのだなあと、私の方が学ばされることが多く、強く心を動かされました。

この三日間の子供禅インサマナーでは、板橋興宗禅師様よりご法話と坐禅のご指導をいただき、また宿泊会場でも坐禅や朝のお勤めや五観の偈のお唱えなど、参加した子供たちにとっては、いつもの生活と違うこともあり少し難しいこともあろうかと思われました。しかし、こうしたありがたい出逢いや体験をすることが強く印象に残って、大きくなった時にこのセミナーを思い出していただければ素晴らしいなあと感じました。



おしまいに、太陽よりもかがやいて、瀬戸内の海よりもきらめいて、そんないきいきとした子供たちとの出逢いと、もちろん参加者全員の皆様とのご縁をいただいたことに、感謝申し上げます。

子どもゼンインサマナーに参加して

小3 岩崎 りお

さいしよ、おじいちゃんからゼミナーに参加してみるかと言われた時、ぼくは、さびしくなるのがいやでことわりました。でも七月になって、楽しそうなので行くことにしました。そしてお母さんがじゅんぴをして連れて行きました。ふく山までおじいちゃんにつれて行ってもらいました。そして開会しきがはじまりました。しらない人ばかりだったけどあまりさびしくなかったです。

そして禅師様の法話がむずかしかったです。その後いっしよにぎぜんをして、ホテルに行きました。ホテルにつくと、室内ゲームをして、友だちがいろいろできました。終わってから夕食をいただきました。その後室内えんそうを聞いて、松原先生のお話を聞いて、おふる

に入って森山そうしくんとねました。

二日目は、バスでおの道へ行きました。おの道の山から見る海のけしきは、さいこうでした。ロープウェイから見ると山もすごかったです。ロープウェイから行ってよかったです。山の上から天ねい寺におりるのは、すごく大へんでした。天ねい寺の中は、すごく広かったです。

天ねい寺でぜんをやり終わっておの道ラーメンを食べました。おの道ラーメンは、おいしかったです。自由行動でせんかんヤマトのロケセットを見てすごかったです。ロケセットはバスで回るだけだったけど、もつとちかくで見えたかったです。えい画に行きたいです。

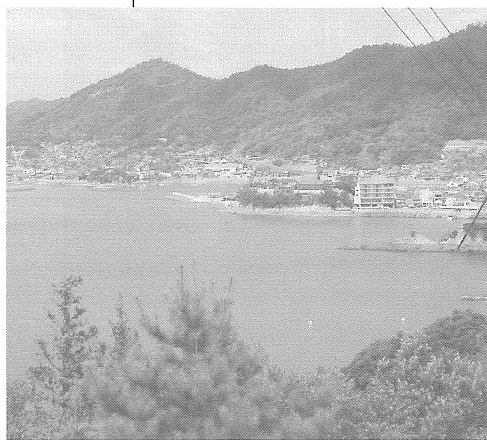
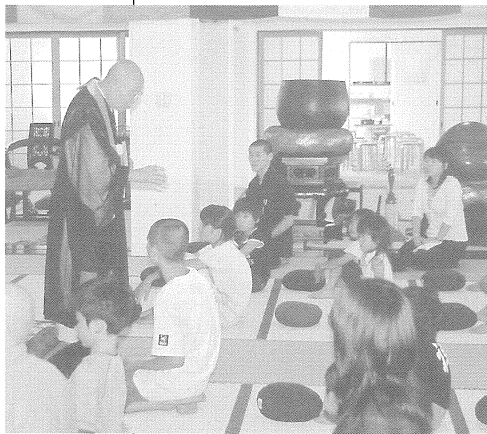
三日月のせんすい島で山にのぼるのが大へんでした。へいかいしきでしゅうりょうしようがもらえてうれしかったです。

新しく友だちができて、みんなです。ゲームをしたり、山にのぼったり、話ができて、楽しかったです。ぜんは、長くて大へんでした。でも来年もサマナーでみんなに、あつてみたいです。

おもい出のあったセミナー

小2 だん上 尚か

わたしはきよ年、島ねでのセミナーにさんかしたので今年で二回目です。今年も広島けんだったの



で、同きゅう生も四人いっしよにさんかしました。

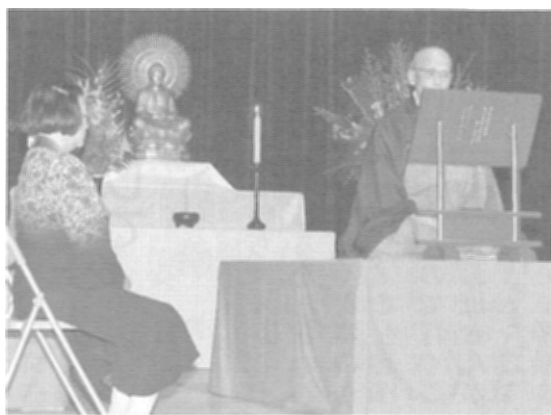
はじめに、ふく山のお寺につきました。すごく大きなお寺で、山門も大きくてびっくりしました。そこのお寺で、ぜんじさまに、ぜんのしどうをしていただいたとき、「あつ、この子じょうだね。」と言われたのがとてもうれしかったです。わたしは、毎月ぜん会にさんかしているの、少しなれていました。

そのあとホテルへいどうしました。うみのちかくのホテルでした。ホテルでゲームをしたりとても楽しかったです。はん長さんやみんなにやさしくしてもらいました。

おのみちのロープウェイは、なん回も見たことはあつたのですが、のつたことはなかつたので、楽しみました。のつてみると、高くてすこしこわかったけど、きれいなけしきが見れて、とてもよかったです。せんすい島でのゲームも楽しかったです。

また行きたいです。

禅をきく会



禅をきく会に 参加して

川井 敦子

年と共に、物事に感動する事が少なくなってきた頃ですが、「禅をきく会」では、鮮烈な感動を受けました。

まず、窪島誠一郎氏の講演です。終戦時、小学生であり「きけわだつみのこえ」を、胸の張り裂ける思いで読んだ私は、戦没画学生の遺作を展示しているという「無言館」には、強い関心を持っていました。

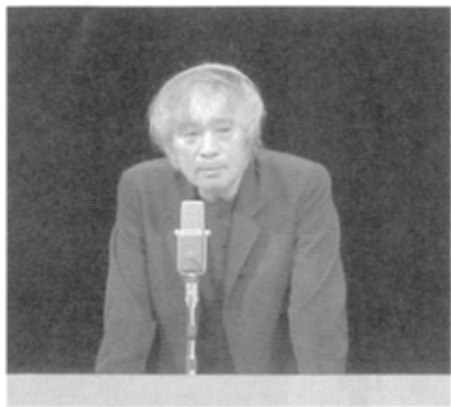
氏は、戦後の混乱期を、養父母に育てられて、実親を求め続けてこられたとの事ですが、野見山暁治画伯の「祈りの画集」に出会った事がきっかけで「無言館」をつくるに至ったという経緯を語られました。その中で、「無言館」建設は、自分の戦後の辻褃合わせではないか、自身の戦後の空白感を埋めんが為のパフォーマンスではないか、偽善行為なのではないか、と悩み続けられた事を、低く静かなお声で話

されました。その厳しい内省のお姿に、強い感銘を受け、自分は、これ程の謙虚さをもって自己を見つめた事があつただろうかと自問していました。その日から、自分が易きに流れようとしていたのではと感じる時「真実に生きよ」と、全身で語りかけられた氏のお声とお姿を思い出しています。

次に、坐禅のお姿です。舞台上で坐禅をなさるとは、なんといい思いつきでしょう。啓蒙の為であり、当日の眼目であるという事は理解できましたが、教義も知らない者としてましては、唯じっと見つめるしかない一時でした。けれども、清寂と厳しさに満ちた空間となっている舞台に、只管打坐とは、このようなお姿なのかと、深く感動致しました。又、会場のお坊様方の真摯なお姿にも胸を打たれました。日頃、存じ上げている若いお坊様方の暖かく爽やかなお姿を思い浮かべながら、仏教が、私達の日々にも、より深く係り、心の平安の拠り所になる事と、本当に嬉しく存じました。このような素晴らしい時を与えてくださいました皆様に、心から御礼を申し上げます。いと存じます。

窪島

誠一郎氏



岡山会場 平成17年11月30日
於：高梁総合文化会館大ホール

ひろ

さちや氏



鳥取会場 平成17年10月20日
於：米子市公会堂

ひろさちや氏講演 「あるがままに見る」と聞いて

鳥取県宗務所護持会長
阿部 忠義

諸法空相：般若心経では、宇宙に存在するあらゆる事物が諸法です。それを「空」のすがたで捉えようという。法華経では、宇宙に存在するすべての事物を真実のすがたで捉えよといっています。

その考え方は正反対ですが同じことをいっています。昔、インドの国の首都に一人の女性がいました。彼女はやせの人といわれています。

彼女に一人の男児が生まれましたが、その子が死んでしまいます。彼女は、その子をかかえて「どなたか、この子の生き返る薬をください」と叫び続けました。だが、誰もどうすることもできませんでした。

その時、釈迦が首都に來られました。彼女を見て、「わたしがその薬をつくってあげよう」と言われます。その薬

の原料になるカラシダネをこれまで死人を出したことのない家からもたらされて来なさいと命じられました。彼女は死者を出したことのない家を探して回ります。しかし、どの家も死者を出していません。もうとこころがありません。

お釈迦さまのところへ帰っていきました。「女よ、カラシダネを貰って来たか。」「いいえ、お釈迦さま。私一人がこんな思いをしているのではありません。皆さんが……」「この子を安らかに眠らせてやります」釈迦の問いに彼女はそう答えました。

生きている子は、生きているそのままで最高の価値です。と同時に、死んでしまった子は、死んだそのままで最高の価値です。だから死んだ子を生き返らせる必要はありません。それが「諸法実相」であり、そのことを釈迦は教えられたのです。

死んだ子を死んだ子として、そのまま愛するのが真の親の愛情でしょう。

慈悲の心、仏様の心を教えられたのです。ご縁の世界、えにしの世界、あるがままに肯定しましょう。

南無釈迦牟尼仏

布教協議会・講習会



平成十七年九月十五日、十六日
於 松江市 ホテル水天閣
センター布教師 西古孝道

弁護士 豊島 住夫氏



花園大学教授 佐々木 閑氏

布教講習会の余滴

水天髣髴青一髪

松江水天閣を会場に開催された中国管区布教講習会に参加して、



雲耶山耶吳耶越 水天髣髴青一髪

——泊天草洋 頼山陽——

茫々たる大海を前にして雲か山かそれとも呉の国か越の国か、水と雲とが悠るか彼方で青一筋に連なっている。山陽の句はスケールが大きい。意識の片隅に触れた言句が親密度を増し自分のものとなるまでには、熟成する為の大切な時間経過がどうしても必要。

晩秋、永平寺御征忌に随喜した折、接賓に鈴木単頭老師を訪ねて問答一著。

僧問う 老師の進退を見るに笏を右手に持つ

この意 作塵生

答曰く 右手に笏を握るは師匠から相続した家風なり。見よ、頂相像は右手に笏を持つぞ。

僧問う 単頭老師の進退威儀は雲水の範たり。新到和尚が真似するのは

答曰く 否や、各自の師匠の家風に準ずるが宜しと指導いたす。總持寺では明了に左手に如意 右手に房を持つ。

不図、眼を床の間に転ずれば禪語が掛かる

始随芳草去

本田後堂老師より「去はユク」と訓むべしと聞き及べども出典は不明なりと。自坊に帰り再三祖録を繙き碧巖録著す

始随芳草去 又遂落花回

三十六則 長沙一日遊山ノ話 長沙禪師の遊山は往来自在、往く時は芳草に誘われ又帰り路は落花を遂うて没蹤跡。

好句との出合いは摩訶不思議なるものと合点した受講の余滴であります。

至禱 至禱

青少年教化指導者研修会



平成十七年六月十六日、十七日
於 広島市 アークホテル広島
広島県 運西寺 坂上興道

エッセイスト 浜 文子氏



研修会に参加して

昨年の梅雨時期に広島市内で行われた「青少年教化指導者研修会」に参加させていただくご縁を頂きました。一泊二日の日程で内容は人権学習、エッセイスト、浜文子先生のご講義、そして近畿管区教化センター主監の鈴木顕道老師よりのご講義と、大変内容の濃い研修会でした。

まず人権学習では、広島県宗務所人権主事の栗原孝道老師より、外国人差別問題について、ビデオ学習を通してご教授頂きました。日本で働く外国人労働者の就職問題、会社での対応、また日常生活で受ける様々な差別について学びました。

エッセイストの浜文子先生は「生から死まで取材現場で三十年間眺めてきたこと」日本人の生活感の変化、家庭の変化について」という演題でご講義いただきました。

演題の通り、先生が長い間のお仕事の中で様々な人に出会い、気づき、感じたことなどを、エッセイを交えながらお話いただきました。

青少年教化指導者という立場でありました、日々出会う人それぞれを教化、導く立場である宗侶にとって、様々な場合においての先生の感じ方、受け取り方を学べたこと

とが、今後の教化指導に繋がるように感じました。

近畿管区教化センター主監の鈴木顕道老師よりは「手話との出会い」と題し、ほとんどの手話未経験者の私どもに大変分かり易く御指導いただきました。

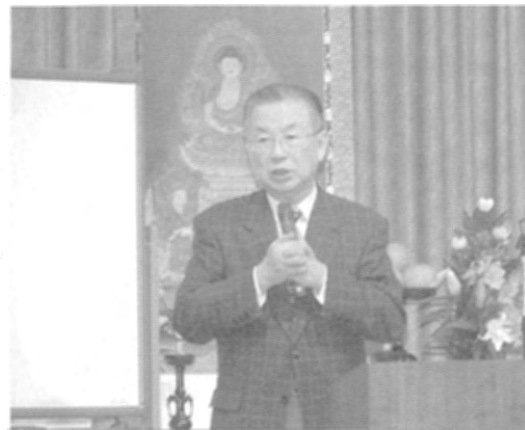
師の手話を始めることとなったきっかけから始まり、聴覚障害についてもお話いただき、また基本的な手話を御指導いただきました。

この度の青少年教化指導者研修会では一貫して現代社会における様々な問題を考え、また今後の取り組み方を考える為の研修会であった様に思いました。

今後は、日々変化していく環境の中で生活する全ての人や動物、また自然との関わりにおいて、それぞれの繋がりを認識し、お互いに隔たりのない暮らしが営めるよう考え、青少年をはじめ、有縁の方々を教化できればと思います。

曹洞宗婦人會中国管区研修會

平成十七年十月十三日～十四日
於 米子市 皆生グランドホテル天水
鳥取県米子市 瑞仙寺内 長曾景子



金で買えぬもの

「金で買えないものはない」と豪語していたライブドアの堀江社長が逮捕されてからのどのくらいの時間が過ぎたのだろうか。この事件は、現代の営利追求型社会を象徴するものだと私には感じられた。

時期を同じくして、耐震偽装、ホテル東横インの違法改築などが明らかになった。三者とも己の利益のみを追求した結果の出来事であった。これらの事件は、私達に金銭では買うことのできない人間の本当の幸せは何なのかを考えさせるものだと思う。

平成十七年十月十三・十四日に鳥取県米子市の皆生温泉で曹洞宗婦人會中国管区研修會が開催された。本部婦人會長様をはじめ、たくさんの来賓をお迎えし、三百人近い会員が参加した。宗教学者であるひろさちや先生の『般若心経のこころ』と題する二回の講演と、車椅子のフォークシンガーである小西達也さんのコンサートが主な研修内容であった。

お二人のお話は、人はどうやったら幸せに生きて行くことができるとかを教えてくださるものだった。ひろ先生は、婦人會の『會員の誓い』の根本になる布施、愛語、利行、同事という教えを分かりや

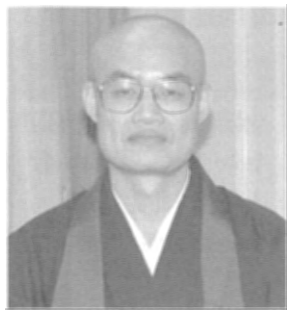
すく説いてくださり、この四つの教えを実践して行くことが本当の幸せを得る道であると教えてくださった。

そして小西さんは、わたしたちが持っている日常生活の中のいくつもの幸せを教えてくださいました。温かいご飯が食べられること、お風呂に入れること、家族と共に食事ができることなど、私達があたりまえだと思っている日常生活がとても貴重なものであることを教えていただいた。

金で買えないものはたくさんあると思う。二十一世紀は『心』の時代だと騒がれて久しいが、今こそ金で買えない『心』を真剣に磨く時なのだと感じる。この研修會で教えていただいたことを仏教徒として胸に刻み、今ある我が命に感謝してこれからの日々を過ごしたい。

合掌
朝日川柳

中国天童寺拝登の報告 ～道元禪師を感じる旅～



道元禪師は宋に渡り、どこで、何を、どのように学ばれたのでしょうか。それを知るためというより、それを感じるために「天童寺拝登の旅」に参加しました。

「百聞は一見にしかず」と言います。話を聞いても本を読んでも

なかなか分からないことが、実物を見れば一目で納得できることがあります。と言っても、今の中国において道元禪師の姿を求めるとは至難の技です。時代と共に、政治体制が変わり、寺院の建物が変わり、中国仏教も変わりました。何もかもが道元禪師の入宋時とは大きく違い、当時を偲ばせるものはほとんどありません。その中において一つだけ変わらないものがあります。名前です。地名、寺院名、人名が同じなのです。名前をたよりに想像をふくらませていく作業は、とても楽しいものです。

道元禪師が上陸された寧波の港に「道元禪師入宋記念碑」が建てられています。この港で船中に三ヶ月間留まられます。戒臘の問題も言葉の習得もあつたのでしよう。ここに阿育王山の典座が訪ねてきて、禪の学びの一步が始まります。

天童寺は永平寺に似ていると言われます。禪院のイメージがここで具体化したのでしょうか。仏殿前で苔を干す老典座との問答。如浄禪師と妙高台での面授。僧堂での叱咤激励。天童寺の伽藍を巡りながら、「正伝の仏法」の源を訪

ねるのです。朝課に随喜し中国音の読経を聞き、異国での学びを実感しました。

その他、道元禪師が遍歴された諸山のいくつかを訪ねました。阿育王寺、天台山万年寺、普陀山、道元禪師はここで何を思い何を学ばれたのか、史伝と照らしあわせながら思いをめぐらします。栄西禪師の跡を追い、梅花に導かれ、正師を求めての旅でした。そして、再び天童寺に上り、如浄禪師の下で身心脱落されたのです。

異国の地で身心を挙げての参学を慕い、志を新たに作る旅でした。

青少年教化指導者研修會

- 日時 平成18年6月27日(火)正午受付 13時開講
28日(水)正午まで
- 会場 島根県大田市 スカイホテル大田
- 講師 未定
- 参加費 一、二、〇〇〇円
- 対象 青少年教化員・青少年教化を志す宗侶
- 申し込み先 各宗務所 ■お問い合わせ 教化センター

布教協議會・講習會

- 日時 平成18年9月6日(水)正午受付 13時開講
7日(木)正午まで
- 会場 島根県大田市 国民宿舎さんべ荘
- 講師 未定
- 参加費 一、二、〇〇〇円
- 対象 布教師・宗門僧侶
- 申し込み先 各宗務所 ■お問い合わせ 教化センター

■平成18年度事業計画

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

月	日	行 事	備 考
4	13(木)～14(金) 21(金) 27(木)～28(金)	全国教化センター連絡協議会 センター企画委員会 人権三者協議会 中国管区教化センター報第22号発刊	宗務庁 広島市 ホテルニューヒロデン 広島市 ホテルサンルート広島
5	8(月) 未定	センター布教師協議会 曹洞宗婦人会中国管区役員会	広島市 ホテルニューヒロデン
6	未定 27(火)～28(水)	集中伝道 青少年教化指導者研修会	山口県宗務所管内 大田市 大田スカイホテル
7	4(火)～5(水) 26(水)～28(金)	管区役職員人権学習会 第22回子ども禅インサマーセミナー	広島市 ホテルサンルート広島 出雲市 県立青少年の家サンレイク
9	6(水)～7(木)	センター布教協議会・講習会	大田市 国民宿舎さんべ荘
10	11(水)～12(木) 未定 未定	曹洞宗婦人会中国管区研修会 集中伝道 布教師特設検定(中国・四国・九州)	山口県萩市 萩本陣 広島県宗務所管内 四国管内
11	2(木) 未定	センター運営・企画委員会 全国教化センター連絡協議会	広島市 関東管区
1	下旬	中国管区教化センター報第23号編集会議	
2	未定 19(月)～20(火)	布教委員長会議・役員会議 島根県布教講習会	岡山県宗務所管内 出雲市 出雲ロイヤルホテル

5月26日(金)	禅をきく会〔本庁主催〕	山口県 新南陽ふれあいセンター
11月14日(火)	禅をきく会〔管区主催〕	島根県民会館

■センター役員

統 監	松原 徹 心	光 善 寺	〒755-0035 山口県宇部市西琴芝2-1-46	☎(0836)21-5465
主 監	村上 邦 雄	摩訶衍寺	〒722-0202 広島県尾道市原田町梶山田4338	☎(0848)38-0656
賛 事	藏 重 宏 昭	玄濟寺内	〒753-0811 山口県山口市吉敷1584	☎(083)922-4560
賛 事	檀 上 一 祥	吉祥寺内	〒722-2416 広島県尾道市瀬戸田町林686	☎(0845)27-0719



(尾道水道を望む)

編集後記

● センターだよりも二十二回を迎えましたが、今回より紙面を刷新して大変読みやすくなりました。

● 三十周年記念行事の一環であります「法話集」に、お忙しい中、貴重な玉稿を頂戴致しました執筆者各位には厚く御礼申し上げます。

● 早い内に発刊を目指して進めていきますので、いま暫くお待ち下さい。その節には管内ご寺院様に送付を予定してまいります。(主監)

● 時代に即し、ようやく当センターも簡単なながらホームページを開設しました。行事案内・行事報告等掲載していただきますので、是非ご覧下さい。ご意見等もお寄せ下さい。

● 別紙リストの通り、以前よりビデオテープの貸出を行っております。諸行事にご活用頂きたく存じます。(賛事)